日本は世界の森林保全にどのように協力しているの?





日本も森林や生物多様性を守るために努力してい ます。政府と民間企業など、さまざまなアクターが協力 して森林の保全に取り組んでおり、また、国土の7割を 森林が占めていることから、林業分野でも経験豊かな 技術を培ってきました。こうした優れた技術と知見は、 世界の森を守るために生かされています。

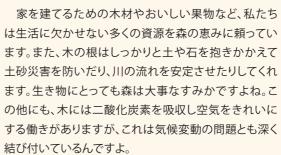
例えば、コートジボワールでは違法伐採や汚染など によって森林破壊が問題となっていました。日本は、住 民参加型の取り組みを広めたり、専門家を派遣したり することで、4年間で2,000ヘクタールの森の回復を目 指す同国を支援しています。

森林は種類によって保全の仕方が異なるだけでな く、どのような対策を取るかは国の経済状況によって も変わります。国内での経験を背景に、相手国のニー ズに基づいて細やかな協力ができるのは日本の森林 国際協力の強みだと言えるでしょう。

どうして世界の森を守らなければならないの?



森林には、いろいろな働きがあり、私たちの生活をあ らゆる側面から支えてくれていることを知っていますか。



ところが、世界では森林面積の減少が深刻になっ ていて、特に南米とアフリカでは森はどんどん姿を消 しています。その一方、アジアでは、主に中国での大 規模な植林により森林面積が増えていますが、それ でも世界全体では2000~2010年の10年間で、毎年 500万ヘクタールの森が失われています。

このように、地域差はありますが森林にはいろいろ な働きがあり、地球規模の環境問題に結び付いてい るため、各国が協力して保全していくことが大切なん ですよ。





日・英が開発支援の協力強化

7月7日、開発や人権の問題を扱う英国の独立系シンクタンク

ODI(Overseas Development Institute)本部で、「日本と英 国:新開発協力政策一多様化するチャレンジに対応するパート

はじめに、外務省国際協力局の岡庭健審議官が、政府開発 援助(ODA)を通じた日本の60年にわたる国際社会への貢献を

振り返った上で、国際情勢の変化や開発課題の多様化・複雑 化・広範化に対応すべく2月に決定された「開発協力大綱」を紹

続いて、エジンバラ大学のケネス・キング教授は、日本のODA

をはじめとする国際協力の成果や特色に言及。伝統的ドナーで

ある英国の支援や、近年注目を集める中国の対アフリカ支援の

また、政策研究大学院大学の大野泉教授は「開発協力の新

たな時代における英国と日本」と題して、日本の「開発協力大

綱 | の新たな方向性を示し、特に官民連携を一層推進するととも に、「質の高い成長」を重視する点を強調。英国の開発政策と比

会場では、開発協力関係者や有識者、NGO関係者などとの

活発な意見交換も行われ、日本の開発協力政策に対する理解

較し、日本への期待や日英連携の可能性について論じました。

特色と比較した「日本らしさ」と強みについて述べました。

ナーシップの強化」と題したシンポジウムが開催されました。

介しました。

を深める機会となりました。

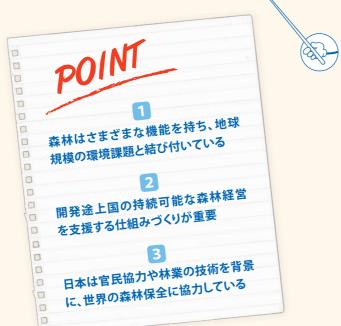
[左]日・英の代表者に よる発表(左から2番目 が岡庭審議官) [上]参加者からは多く の質問が寄せられた

森林を守るために世界はど

ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで1992年に開催され た「地球サミット」をはじめ、地球規模の環境課題をテー マにさまざまな国際会議が開かれ、森林の問題につい て話し合われてきました。

というインセンティブは働きづらいといった難しさもあ ります。

みなさんは「持続可能な森林経営」という言葉を聞い たことがありますか。これは、森の生態系を健全に維持 し、その恵みを利用して人類のニーズに持続的に対応 できるように森林を扱うという考え方のことです。ここ で大事なのは、将来世代のニーズも守るということ。木 を植えても、実際に生活の糧として活用できるまで育つ のは次の世代になってしまうため、特に開発途上国の 人々にとっては遠い将来のために目の前の木を守ろう



のような取り組みをしているの?

このため、2000年に設立された国連森林フォーラム (UNFF)では、森林に関する世界目標を設定して、その 達成に向けての施策や協力を進めるための枠組みを つくり、政府間で議論を続けてきました。

また、1986年には国際熱帯木材機関(ITTO)が設立さ れました。ITTOは、持続可能な森林経営に加え、熱帯木 材の適正な貿易を推進する観点から各国の森林開発を 支援しています。現在、70の国々と欧州連合(EU)が加盟 しており、生産国と消費国の間で森林に関する政策を議 論し、国際協力を通じて森林資源を守っています。

ITTOの事務所が横浜にあるのは、日本が当時世界最 大の熱帯木材消費国だったためと、日本が森林保全に 最も熱心な国の一つとして世界に認められているため でしょう。

コートジボワールで荒廃 した森林を回復させるた め地域住民が苗木を移 植する(写真:ITTO)





「ここが知りたい」。国際協力に関係する政策を 外務省の担当者が分かりやすく解説します!

テーマ 森林保全

TAKAHASHI Kazuhiro

東京大学法学部卒業後、農林水産省入省。2008年から 農林水産大臣官房国際部上席交渉官として世界貿易機関 (WTO) 農業交渉を担当。10年から在ジュネーブ国際機関 日本政府代表部参事官(農業担当)。13年より現職。

外務省 国際協力局 地球環境課長

29 mundi August 2015 August 2015 mundi 28